

市長と語るまちづくり懇談会 山岡

日時：令和元年7月23日（火）午後7時～8時35分

場所：山岡振興事務所

地域自治区会長あいさつ

■会長 今日久しぶりに太陽が出た。赤い顔をしているが、緊張し、日焼けしているためだ。集まって話をすることが地域のまちづくりで一番大事なことだと思っている。今日は市長の姿勢と、これからまちづくりをどうしていったらいいかという皆さんの意見を出していただきたい。しゃべりたい人がたくさんいると思うがお願いがある。自分ばかり話さないこと、ほかの人の意見を頭から否定しないこと、楽しい雰囲気を大切にすること。楽しくなくても楽しくしようと心がけていただきたい。今日はたくさん集まっていただきありがとうございます。

市議会議員あいさつ

■市議 皆さん今日はありがとうございます。会長から今話があったように、この地域が持っている課題をこういうところできっちり話していただき、市はきっちりそれを聴いていただき、施策に反映させてもらうということでやっていけると思う。また、市長の方針であるこの4つの施策について、市長が報告しながら皆さん方の意見を聴いて、よりよい市政が運営できるようにしていかれるということだ。それについては、私ども議員も皆さんの意見をしっかり聴き、市へ提言できるように我々も勉強していきたい。今日はいい懇談会になるよう祈念する。

「はたらく」「たべる」「くらす」「まなぶ」の主要事業について

■市長 山岡町について。平成17年に5,300人、平成30年は4,200人。世帯数は概ね変わらず、平成30年1,508世帯。出生数は、平成30年に16人生まれ、今18人子どもがいる。大体20人ぐらいで来ていたが、この2年ぐらい少し減っている。

山岡独自の取り組み。一つは公共交通。各地域でもうちょっと頑張った方がいいという意見をいただいている。すでにお年寄りが交通事故を起こし、子どもとの事故を起こしている。運転免許証返納するにも公共交通がないからどう生きていくのかということが全国的にテーマになっている。山岡町には明知鉄道の山岡駅と花白温泉駅があり、恵那、明智と結んでいる。バス路線は2つあり、瑞浪駅方面へ行くものと吹越方面へ行くものがある。いろいろなところにバス停を作り、デマンド型で、予約いただければバスを回すというこ

とも先進的に皆様には取り組んでいただいているが、利用はまだ伸びる可能性があるので、これから先も使いやすい公共交通にするにはどうしたらいいか意見がいただきたい。

新しい事業。土地改良事業。久保原で、25.4haの圃場整備が進みつつある。

岩村は「半分、青い。」、明智は「麒麟がくる」という大河ドラマということだが、関係人口的には山岡町は関係あると思う。道の駅おばあちゃん市・山岡は来場者数が56万人で、かなりリピーターが多い。また、生産者として協力している人がかなりいる。そういう意味でファンが多い。こういうところが関係人口づくりの一つだ。もう一つ、山岡町内はかなりカフェが多い。これも、山岡町の持っている風土、景色が、いわゆる田舎らしい田舎なので、カフェがどんどんできていく。これは他の町には見られない。こういうところにお客さんが来てくれるのも、関係人口の取り組みだと思う。

意見交換

山岡地域の将来像の実現に向けて

■会長 レジュメの裏に地域計画の基本目標が書いてある。これは将来像の実現に向け、地域づくり事業としてさまざまな事業が展開されている。計画期間は10年間で、途中で検証、見直しすることになっている。今年、後期5年間の見直しの年だ。今回の意見交換では、地域計画に掲げられた山岡地域の将来像の実現に向け意見交換をしたい。

高齢化社会の対応としては、移動販売、移送サービス、子どもの見守りは青パトによる地域安全パトロール、学校ではコミュニティー・スクールに取り組んでいる。

皆さんの意見を後期計画の施策に反映する。前向きな意見をお願いします。予算や誰がやるのかについても議論すべきだがそれはもう少し先に行く。今回は将来像を語っていただき方向性を定めたい。

話題1. 高齢化社会に対応した地域づくりについて

■健幸・福祉委員 平成28年度から地域計画が新しくなり、その中で、安全で安心して暮らせるまちにしようという柱がある。地域計画の中には、にぎわいづくり、活性化という目標の中で、ちょっと違った方向から、安全で安心して暮らせるまちにしようということだ。その中の大きな柱に、健康寿命百歳大作戦。平均寿命が延びているが健康寿命と一致しているかどうか。ただ息をしているだけでは面白くないので健康寿命を延ばさなければいけない。

もう一つは、地域全部が家族になる「あんじゃないのまち」というのを目標に掲げた。平成28年当時、そのためには何をしたらいいか7人の委員で知恵を出して考えた。

まず出たのが、買い物にも行けない高齢の人、高齢の独居の人や高齢者世帯を、委員で手分けして40世帯ぐらい回って聞き取りを行った。すると、やはり買い物には非常に苦

労しているということで、移動販売をしてほしいという話があった。これについて、串原、上矢作町では国で過疎地に指定されており、実際に移動販売がされていたので、これを参考にすれば何とかできるのではないかと。たまたま地元で移動販売をしている業者もみえたので、その人をお願いして、平成 30 年度 4 月から行っていただいている。ただ、日程的に、山岡町はかなり広いので一日では回らない。その業者は週に 1 日、金曜日だけ、特に要望の多かった遠山地区だけ 20 カ所弱回ってもらっている。利用してもらっている人が毎回 20 人前後ある。

もう一つは、病院や振興事務所、郵便局、農協へ行きたいという人。高齢になって車に乗れないということがある。今まで老人 2 人で住んでいておじいさんに連れていってもらっていたが、運転免許証を返したので、2 人とも出られなくなったということがある。それで、公共交通でこまめに回れるようにしようということが去年の 10 月から始まり、よやくる号として動き始めた。バス停がたくさんできて、そのバス停まで行けないという人があるんじゃないかということで聞き取りをして、バス停や山岡駅まで行けない人は私たちがボランティアで運ぶ取り組みをした。話をしたらぜひ利用したいという人が 42 人いた。ただ、今はまだ車に乗れるが念のために登録するという人もかなりいる、実際に利用した人もその中のごく一部だ。公共交通、デマンドのよやくる号の発足に合わせて、去年の 10 月からこれをボランティアで運行している。

なぜボランティアかということ、本当はお金をもらって動かしたいが、なかなか法治国家日本で難しい法律があり、普通の車でお金をもらって人を運んではいけない。最近例外の例外が認められて、恵那市内でも串原と飯地町で白ナンバーによる有償運送が認められた。しかし、山岡では、岐阜運輸支局まで行っていろいろ相談してきたが、ちょっと難しいということだった。そのため、ボランティアしかないということで、現在お願いしているボランティアの運転手が 20 名。ただ、運送に使う車は NPO が持っている青パトを借りており、その運行経費は市の補助金から出す。ドライバーに連絡するための通信費も、市の補助金を充てている。

利用者は、42 人の登録者があったが、実際に利用したのは 10 人で、10 人が 37 回利用している。途中で、よやくる号のダイヤが不便だということで、明知鉄道との連絡が良くなるようにダイヤ改正をした。それ以来、移送サービスの利用が 0 人に近くなり、いかに明知鉄道を利用しての利用が多かったかなということも感じている。もう一つは、ただで運んでもらうというのは気がひけるという人もあった。にこっと笑ってありがとうと言ってくれば良いと言ってサービスしていたが、それでも気がひけるようだ。これもまだまだ、山岡町は洞が非常に多く、特に久保原などは九十九谷というところで、谷が 99 もあるということで、すべてにわたり公共交通を利用していただけるようにバス停を作るわけにはいかないの、まだまだこういう取り組みは必要だろうと思うが、本当は補助金頼みでは

なく事業化していきたい。何とか、白ナンバーでもいいので有償運送ができるような手立てが欲しい。岐阜運輸支局では、「緑ナンバーを取ってもらえば何でもできるから簡単ですよ」と言われるけど、それをやると運転手の確保も大変だ。僕も知り合いの中で、2種免許を持ってみえて、実際に働いてないのでボランティアでやってもいいよという人は誰もいないので、やはり緑ナンバーを取るのは難しいかなと。これからこれをどうやっていくかというのも課題だ。

そのほか、健康薬種のことについては、山岡の地場産業の寒天が健康にいいことは分かっていると思うが、毎日寒天を食べている人はあまりいない。健康寿命百歳ということになれば、もっと寒天を食べていただくような周知もしなければならない。また、山岡町には陶業文化センターがある。土いじりが好きな人が多いが畑の土だけでいいという人が多い。陶芸もやってもらい指先を動かしてもらい、今度は何を作ろうと考えて、心身の健康に役立つことも周知していきたい。

今の健幸・福祉委員会の活動を踏まえて皆さんの貴重な意見を頂戴してこれからは生かしたい。健康で百歳までおられると足、精神力、いろいろなことが必要になる。今の事業を効果的に行うことや、こうしたらいいという意見はあるか。

■市民1 高齢化社会ということで100歳まで生きようとしている。山岡町のプールで、80歳以上になったらそこで訓練して、寝床で生活するのではなく、歩いている老人になって死ぬということ。山岡町のいいところはプールがあることで、何歳以上になったら全員入るようにして、健康を長く維持するようにしたらいいと思う。私は中津川法人会というところで話を聞いたことがある。下呂市にプールを歩くコーチがいて、老人になったらプールの中で歩く、そこで寿命を長くして、寝てしまう老人にならないようにするというグループがあった。山岡町にはそれがベストだと思った。先人にいい場所を作ってもらったので、ぜひこれを利用し、寝たきりの老人を少なくしたい。福岡町のまちでもされていると思う。下呂市のコーチが福岡町の辺でやっていると聞いたことがある。

らっぽ、仲間増やし運動というようなことを展開したらどうかという意見だ。らっぽを経営しているのはNPOまちづくり山岡理事長だ。

■NPOまちづくり山岡理事長 私どもらっぽを、壮健クラブからお願いがあり、壮健クラブの会員は5%の割引にした。大いに利用してほしいのでそうした。会員証を持参すると、回数券4,000円が3,800円になる。

らっぽの近くに住んでいても一度も行っていない人が、60歳以上の人でいる。一度足を運んでリピーターになってもらいたいのが、そのためにこうしたらいいという意見はないか。5%ではなくもっと気前のいいようなアイデアはないか。

体の方は仲間増やし運動でやってもらうが、精神的なことや手作業ということで陶業文

化センターがあるが、利用している人は少ないような気がする。利用している人は手を挙げて良さを語ってほしい。

■市民2 家内が行っている。詳細は聞いていないが、毎週決められた人が行くもので、通りすがりで行くものではない。ちょっと一般的ではない。地元の人が陶業文化センターはどこかと聞くことがあるので、宣伝が少ないのだと思う。公共施設にはパンフレットを置いている。指先を動かすと物忘れがゆっくりになると言われているので行っていただくといい。企画も、かぶと造りがどうかという意見があり、「麒麟がくる」のことを考えたようだが、かぶとに特異性があり陶芸には向いていないと聞いた。

■振興事務所長 陶業文化センターは市役所の管轄だ。帰りに玄関で見てほしいが、そこで作った風鈴が飾ってある。これからの季節にいい。そういうものも作れる。

9月29日に登り窯寒天フェアが行なわれる。区長会長が実行委員長だが陶業文化センターに行ったことがないそうだが。

■区長会長 陶業文化センターは、今まで寒天ふれあい祭りをやっていて、片方で登り窯フェアを別々にやっていた。今年度は2つをコラボして9月29日に開催する。それで初めて陶業文化センターを知った。行ってみたら、お年寄りから若い人まで陶芸をしているのを見た。この地域は、働くところは町外にはいっぱいでき、人口も減っている。住みよいまちというのはこういう文化的な交流が大事だと思う。地域のお祭りとかそういうことも含めて、そういうところでやはりお年寄りから子供まで活性化していくことが大事だと思う。陶業文化センターのあり方はすばらしいと思う。

私は寒天屋なので、そういうことにみんなが日頃ふれあい、町外の人にも特産の寒天と窯業を発信していくのが、交流人口につながっていくと思う。

移送のことで、もっとうまく移送する工夫はないか。

■上手向区長 ただ東鉄タクシーに勤めているだけで、勉強したわけでもない。簡単に説明する。勤めは多治見に行っている。多治見では、現在、自治会と市のかかわりをもった公共交通の展開をしている。費用の負担を自治会と市が折半し、運行は地元の交通事業者で、相乗りタクシー、相乗りバスという呼び方をしている。全国各地で相乗りは盛んに導入されている。費用的にはずいぶん負担になるので、恵那市、山岡町ができるか疑問ではあるが、今後の選択肢に入れていただけるといいと思う。

市長、副市長に聞きたい。乗り合いというのはどうなのか。

■市長 乗り合い事業というか、そもそも公共交通をどう守っていくか、恵那市で一番解決しないといけない最大の問題の一つだ。コミュニティーバスの運営費が1億8千万ぐらい。スクールバスの運行費が6,000万から7,000万。これ以外に福祉バスや病院バスを回しており、毎年2億3億かかっており、でもほとんど乗ってないのが現実だ。でも、ないと絶対に困ると思う。そのためにできることを考えていこうと。先ほど話があったように、

白バス運行は民間事業者がいるところはだめだという国の法律がある中でどういことができるのだろうか。と今考えている。

この件は、今年度コミュニティーバス、病院バス、スクールバス、福祉のための無料バス、無料の白バスも含めて、恵那市全体でどういうふうにするか、結論はまだないので、とりあえず情報を集めて検討会議をやる。これは企画課が担当で仕切る。

今までの話について少しコメントしたい。プールの件。恵那市では、正家の区画整理をやっている中に恵那ファミリークリニックというところが運動療法施設を造った。小さいが、水の流れのあるプールがある。そこに運動療法師がおり、健康のために血液検査をして、中性脂肪が高いとか、尿酸値が高いとか、こういう運動を何か月続けるとどうなるということをきちんとしてくれる。同じようなことを榎ヶ根公園で、4月にトレーニング施設をすべて入れ替え、恵那病院の先生方と、運動療法で、こういうことをやると健康のためにいいです。ということをやりました。らっぽでも同じようなことがおそろろできるので、先生と相談していただき、週に何回こういう運動をしてどうやるとこうなるということを目をみただけだと大変健康のためにいいと思う。私ども市も取り組んでいる。地元でも声を上げていただきたい。

陶業文化センター。副市長から聞いた話を申し上げる。工業団地に三菱電機伊丹製作所ができ、そこから工場長が来ており、その人が言うには、陶業文化センターみたいなところはおそろろほとんどない。こんなすばらしい施設があるのになぜみんな使わないのかと。今は大阪に帰られた。陶業というと、瀬戸、土岐、瑞浪、多治見などいろいろあるが、陶業文化センターの良さは、市外の多くの人知っている。地元の人でも認識してもらってほしい。毎週通っている人がいる。関係人口であり、ファンだ。もっとこのパイプを太くしていただきたい。

話題2. 地域で見守る子どもの将来について

■司会 山岡町でやっている事業の現状と今後について、三学の取り組みについて。

■三学委員 話があちこちすると思う。申し訳ない。

三学委員会は3年ほど前から恵那市が進めている三学塾、佐藤一斎の話で、生を受けてから没するまで一生涯勉強だということだそうなので、それを柱に活動している。

3年前にはふるさとかるた取り大会をした。30年ほど前に山岡町婦人部の方が山岡町の昔話等を掘り起こしてかるたを作られたということで、それを復活して行った。その後は、親子落語ということで、プロの落語家を呼び親子で聞いてもらった。これは話し方の勉強として企画した。次は、肝試し大会。これは、お互いに怖いと思う人をお互いに助け合うという意味の疎通ということで行った。また、映画を観た。ミュージカルで、それが終わった後に音楽療法について皆さんの前で説明をした。中学校では合唱コンクールをやっ

ているようだが、生の演奏を聴いたことがないという話を聞いたので、山岡町に 1 人みえる音楽の先生を含め 5 名で生演奏クラシック音楽を皆さんに聴いてもらった。子どもの遊びとして、バルーンを使った遊びをした。本年度はふるさと祭りで好評いただいた肝試しを企画してやってみたいと思っている。

なぜこのようなことをするかというと、今の子どもたちの連絡方法は、メール、ライン、SNS で、文章として伝えるだけ。人間の生活では喜怒哀楽、自分の意思を言葉の中でインターネットを付けるということで、そういうことをみんな交流しながら行うという意思をもって進めているということだ。

これからもいろいろなことを学んでいきたい。実は今子どもたちの中では落ち着きのない子がいるとかよくキレる子がいると聞いている。そのためには若いママ、あるいは家庭の主婦の皆さんも、先ほど恵那農高の「たべる」についての話があったが、食育についても勉強する。もう一つは、相続、これから高齢化すると相続で一番揉めるのが兄弟だという。行政の中には相談会があるが、実はそれほど難しくない、笑えるような、ちょっとした機会ですれぬように。

7 月 1 日から相続の法律が変わっていて、相続の中には、長男が家をやっていて、長男の奥さんがその家のおじいさん、おばあさんをえらい熱心に面倒をみた。あとの兄弟はよそへ行って一回ものぞいたことがないと。そういったときに、法律では嫁は相続の権利がないが、7 月 1 日からは何かそういった権利があるということになったようだ。

行政にお願いしたいことは、管理栄養士、司法書士、弁護士等の依頼は一般市民ではなかなか分からないので、そういった勉強会を開くとき何か手伝ってほしい。

それと、地元に残る人が 3 割であるなら、10 名いて 5 名外に出て 1 名移住者を得ると 6 名になるが、出る人を 4 名、3 名にすれば、数字では 7 名になる。今いる人を留めるということ。その方法としては、リニアの駅ができるが、この地域は製造業が多く、皆さん勉強していろいろな特技、技術を学んでいる。地元に戻って来るとそういう分野を生かす職場がないためによそへ出ていくのであれば、行政では、もしリニアができるならいろいろな職種のある会社等々を誘致していただきたい。

18 歳で山岡町を出て半世紀経って地元に戻ってきた人がいる。

■市民 3 半世紀ぐらいずっと関東におり、父も皆さんのごやっかいになりながら、帰って来たときちょうど 100 歳になり、私も 65 歳になり、決断して帰ってきた。帰って来たときは父が 100 歳過ぎていたが一人で洗濯もしていて、申し訳ないという気持ちになった。ところが、私が出て行った頃と比べて、空き家が 3、4 軒増えていて、家の息子が戻ってきて、私の跡を継いでくれるか、これから考える。私が住んでいたところと環境が一番違うのは、人口。私が住んでいた自治会は 2,500 世帯で、自治会費も月 500 円、掃除も月 1 回みんなでやれば済み、負担が少なかった。しかし、帰ってきて組の内容を見ると、毎月

のように行事がある。最初は大変だと思ったが、やっているうちに、皆さんがどういうことをして維持しているか、お墓も昔と比べるときれいに維持されているし、田んぼや山並みもきれいに維持されていて、こういうところを子どもに見せて説明もして、何とか私の跡を継がせたいと思っている。そのためには、働ける場所をきちんと世話できるかということだと思う。これは一つの提案だが、岩村のカステラ屋さんがどうやって住所を調べたのか、私の関東に住んでいたところに案内をくれた。高校が岩村だったので、そういう心をつなぎとめる一つの方法になった。こちらに帰って来るのが近づいたとき、東京から中津川市や恵那市内の企業に応募したが、なかなか本気にしてもらえず、就職には至らなかった。幸いこちらのハローワークで紹介していただいたところで現在働いている。

提案は、個人情報にネックだが、卒業生名簿などを利用して恵那市の企業や恵那市の状況などをダイレクトメールなどで流してあげれば、外に出ていった人が多く、恵那市に就職する割合が少ない中で、呼び戻すきっかけになると思っている。

1 人高校生が来ているので、若い人から見た山岡町や、今後どうなってほしいということなど話してほしい。

■市民4（高校生） 恵那農高でエゴマの栽培プロジェクトにも携わっている。山岡には寒天という特産品があり、自然が豊かで、町の皆さんも優しく、町の中のイベントに参加していただいたりして、活気の種のようなものはたくさんあると思う。そういうのをもっと大きくして、もっと大きなイベントにつなげていけたら、町内全体で活気や盛り上げる活動ができたと思う。特に案はないが、そういう案が出れば町内は活気にあふれるし、人口が減っているのも少し改善に向かっていけると思う。

食品科学課に在籍している。去年恵那市給食センターと協力して、地元食材を生かした給食を作るというプロジェクトをやった。そういうのが山岡でできたらいいと思う。山岡町にも給食センターがあり、山岡や岩村に給食を出している。そういうところでも山岡の寒天などを使った新しいメニューの開発を通して、町内の寒天という特産品を広く使っていただけるようなことも目指していけたらいいと思う。

■会長 将来は山岡町に帰ってきてくれるのか。

■市民4 町内ではないが、市内で就職しようと思って活動している。

■会長 大きな力になる意見だ。ほかに意見があれば。

■まちづくり企画部長 会長の司会の中でいろいろな意見が聴けてよかった。今年から各地区テーマを絞って、地域の課題を役員だけでなく地域の住民と共有して何ができるのか話し合ってもらったということできている。山岡町もほぼそういう形でできて良かった。特に、話題1では、地元の施設を使うという、陶業文化センターのことなど、改めて「そうだな」と思った。今年、令和3年から7年の5年間の地域計画の見直しをする。まだ煮詰めていただく必要があると思うが、なかなかいい後期計画の見直しのスタートになった

と思う。ありがとうございました。

■副市長 公共交通について。私は明智町役場の時代から、明知鉄道のことをやってきたし、市役所に来てからも公共交通の担当だったので思いがある。公共交通は地域の足としてなければ地域には住まないと思う。公共交通の形は変わるかもしれないが、皆さんと一緒にになって、残していくようにお互いに提案し、実行部隊もお互いに作れるように考えたい。今、トヨタ自動車とソフトバンクがコラボでモネ・テクノロジーズという会社を作った。ここはすでに愛知県豊田市の小原でテスト運行をしている。ただ、まだうまくいっているとは思わないが、先行している自治体を参考にしながら考えていきたい。

それから、高校生が来てくれた。明智でも学生が去年も今年も出てくれた。そのとき出たのは、一般の方から意見が出て、ボランティアにもっと地域の人が出てほしいという話をしたら、その高校生が、ボランティア、ボランティアというが、私たち高校生にはもちかかかってないじゃないかということを行った。やはり、高校生に地域からアプローチがなかなかかかかっていないと私も思う。ぜひ高校生も巻き込んだイベントや、一緒に考えてもらうチャンスを与えてくれれば、高校生も地元に着し地元のことを考えてくれる人になってくれると思う。高校生にはぜひ今後とも参加してほしい。

■市長 食育、相続の件で専門家の派遣をとという話があった。できる限りの対応をする。振興事務所や企画課でも地域振興課でもいいのでその都度相談してほしい。

働く場所が製造業だけではなかなかという話。今、リニアに向けて、岐阜県を含めて、私どもも本社機能、研究開発機能も誘致をやっている。ただ、なかなか結果が出ず私どももがいている。そんなことにも取り組んでいるということも報告する。

ビジネスサポートセンターの話をした。働き方も 21 世紀型というか、少し変わってくると思う。IT などでは離れていても仕事ができるということも言うので、そんなことも少しテスト的に取り組んでいきたいと思う。また期待してほしい。

地元に戻るきっかけのように都会の人とのコネクションをとということがあった。そうだと思う。いろいろなところで皆様やふるさとを離れて遠くで暮らす人がある。一番分かりやすいのはふるさと納税の返礼品だと思う。山岡町出身の人が、遠くふるさとの山岡を思っただけのような商品を用意するとか、イベントを仕組んでイベントに来ていただくとか、いろんな形でコネクションを持って、遠くの人といつまでもつながりが持てるようにと考えていけたらと思う。

人生 100 年時代で、65 歳で退職してそこから健康で 100 歳まで、30 年あれば、50、60、70、80 歳になってから山岡に住んでもまだ何十年かある。そういう第 2、第 3 のステージを山岡町で暮らすというのも一つの提案だと思う。そういう可能性も検討してほしい。

高校生から、給食センターの話も、ぜひできるように担当に申し添える。皆さんに申し上げたいのは、子どもたちに対してイベントを仕組んで、子どもたちが大人になったとき、

子どもの頃こんなことを大人たちはしてくれたなと思うことが、ふるさとを思う第一歩だと思う。ぜひ、イベントには子どもたちを巻き込み、子どもたちに何を残すのか頭に置いて取り組んでいただきたい。

ぜひこれからも元気な山岡町づくりに皆様と一緒に取り組んでいきたい。

■会長 小学校の校長先生から、コミュニティー・スクールの話。

■山岡小学校長 コミュニティー・スクールは 2 年目で、学校運営協議会と相談しながら取り組みをしている。子どもたちが山岡町のことを知って、もっと誇りに思いながら、卒業したときに、山岡町はこんないいところがあると語れるように、今ふるさと学習の見直しをしている。総合的な学習でふるさと学習をする。見直してみると、山岡町の歴史、祭り、かるたにある名所も知らないところがあるので、ふるさと学習に取り入れる。地域の人も参加してくれているので心強い。今年は地域の読み聞かせのボランティアを募集して、8 名が登録して、1 学期に計 8 回実行できた。担任の読み聞かせとは違う。読書の幅を広げている。地域の自然、祭りについても、地域のボランティアの講師がいるので、1 学期から取り入れている。イワクラ公園に 3 年生の子が行き、植物を子どもたちは全く知らないでボランティアの講師に名前や昔咲いていたことを教えてもらい、良かったと思った。今後もふるさと教育に力を入れていきたい。

子どもたちを地域の人材で育てるのがコミュニティー・スクールの最大の課題だ。これからも地域で子どもたちを育てていきたい。

市長お礼のあいさつ

■市長 熱心に議論いただき感謝する。今の雰囲気分かるように、山岡町の皆さんが地元を愛し子どもたちを大事に思っている。その気持ちを皆さんと共有できたと思う。地域計画のこともあるが、これから山岡をどうしていくか、こうした場をまた持ちたい。今日いただいた意見はそれぞれの担当に伝え、できることからすぐに手を入れたい。ほかにも意見があれば、地元の市議や振興事務所長にでも、直接私どもにでもいいので寄せてほしい。

[閉 会]